

平成 31 年度入学試験問題

人間発達科学部 発達教育学科

社会人特別入試

小論文 問題冊子

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 この問題冊子は表紙を入れて全部で8ページ、解答用紙は3枚、下書き用紙は1枚である。試験開始の合図があつてから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答はすべて指定された解答用紙に記入すること。指定された解答用紙以外に記入した場合は採点しない。
- 5 試験終了後、問題冊子および下書き用紙は持ち帰ること。

実施年月日
30.11.28
富山大学

問 次ページ以降の5つの資料を読んで、次の2つの間に答えなさい。

なお、資料に関しては、一部書き改めた部分がある。

問1 資料1（新聞記事）を400字以内で要約しなさい。

問2 資料2から資料5を踏まえて、資料1（新聞記事）にある「丁寧な指導」を行うことのできる教師を大学で養成するためのポイントや具体的な方法など、あなたの考えを3つに整理して800字以内で書きなさい。

なお、資料2から資料5は以下の通りである。

- ・**資料2**・・2016（平成28）年に改正された「教育職員免許法」に基づく、小学校教員免許状など取得のための「教職課程に係る科目区分の大括り化」に関する資料
(出典：文部科学省 初等中等教育局教職員課長 佐藤光次郎、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について、平成29年3月20日)
- ・**資料3**・・2016（平成28）年の「教育職員免許法」の改正を受けて、大学の判断により各大学の教職課程に加えて学生に履修させることが可能となった「学校インターナーシップの実施イメージ」に関する資料
(出典：中央教育審議会、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)、平成27年12月21日)
- ・**資料4**・・現代の教師の勤務時間に関する「文部科学省教員勤務実態調査—教諭の勤務時間」の資料
- ・**資料5**・・教師の業務分類に関する「文部科学省教員勤務実態調査—業務の分類」の資料
(資料4と資料5の出典：文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課、学校や教職員の現状について、平成27年1月20日)

資料 1

丁寧な指導で格差是正（2015 年 8 月 5 日、日本経済新聞）

お茶の水女子大学の耳塚寛明教授らが文部科学省の全国学力テストと保護者アンケートを分析したところ、家庭の経済状況や保護者の学歴が子供の学力格差につながるが、学校の丁寧な指導で格差が是正できることが分かった。

家庭の経済的な豊かさや文化的環境によって、子供たちの学力格差が生じていることはもはや周知の事実といってよい。どんな施策や取り組みが必要なのか。

文科省は 2013 年度「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）の一環として、全国の小中学校各 400 校強を無作為抽出し、保護者約 4 万人を対象とした質問紙調査を実施した。子供の学力調査と保護者調査による家庭の所得等のデータが接続されて、踏み込んだ分析が可能になった。家庭状況と学力の関係を全国標本調査で分析した研究は、文科省として初めてである。

お茶の水女子大学を中心とする研究班が 2 年度にわたり分析を委託され、7 月に結果を公表した。ポイントは 3 つある。

第 1 に、保護者調査で得られた家庭の所得と保護者の学歴を用いて、家庭の社会経済的背景（SES）を測定した。

予想されたことだが、子供の学力が SES に規定される傾向は、通塾等が盛んな大都市圏に固有の現象ではなく、全国データでも確認された。問題は、SES による学力格差が、子供自身の努力によって挽回可能かどうかである。努力の指標は家庭等における学習時間を使いた。

分析結果に驚いた。確かに子供の学力は努力すれば高まる。しかし、努力の効果は限定的である。SES によって家庭を 4 つの階層に分けて分析したところ、SES 最下位層の子供が 1 日に 3 時間以上勉強して獲得する学力の平均値は、SES 最上位層で「全く勉強しない」子供の学力を有意に下回った。

統計的平均値による分析なので、不利な環境にもかかわらず努力によって克服できるケースが全くないことを意味するわけではない。しかし SES 高位の子供に低位の子供が追いかくには、格段の努力が必要となる。

SES による子供の学力格差は、親世代の格差が子世代へと相続され、人生のスタートラインで機会が平等に開かれているわけではないことを表す。誰にも機会が開かれた競争という、公正な社会の前提が崩れている。

第 2 に、それでは、SES から統計的に予測される学力を上回る「高い成果を上げている学校」はあるのだろうか。どんな施策や取り組みが有効なのだろうか。高い成果を上げている学校を「同程度の SES の子供たちが通う学校と比較して学力が高い学校」と定義して統計的に抽出し、教育委員会と学校の訪問調査によってその特徴を明らかにしようと試みた。13 年度に 7 校を訪問して知見を整理し、14 年度には対象校を 18 校に拡充して知見を再確

認した。

その結果、高い成果を上げている学校の特徴として表の7項目が浮かび上がってきた。むろんこれらは共通の要素であって、学校ごとにユニークな他の取り組みが功を奏している可能性もある。しかし共通の要素が確認されたことは、高い成果を上げる学校への道に必須のポイントがあることを意味している。

学力格差是正のために各学校にはこれらの取り組みを徹底させてほしい。ただし、学校の努力だけに委ねることはできない。

例えば家庭学習指導について、訪問校に共通していたのは、宿題のみならず自主学習を家庭学習に求めていた点だった。自学、自勉など呼称は異なるものの、自分の関心に沿った学習や弱点を自分で発見する学習を求めていた。さらに単に自学を求めるだけでなく、教員が翌日にノートを読んで、手を入れ、子供にフィードバックしていたことも共通していた。

丁寧な指導には過大な教員の負担が伴う。教員加配やその財源確保等が、国と地方の教育行政の最重要課題である。それは少人数指導・学級をはじめとする、表に掲げた他の項目の実践にとっても不可欠である。

研究では他にも政策的含意に富む仮説が得られた。同じひとり親世帯でも、学力格差を是正するために有効と考えられる支援策は母子家庭と父子家庭とでは大きく違う。母子家庭には何よりも経済的支援が必要である。

また学級規模を縮小する政策の効果は学校のSESによって異なり、低位のSESの学校で効果が著しい可能性がある。このことは一律の教員定数改善ではなく、選択的投資への転換を図るべきことを教えている。（後略）

表 「高い成果を上げている学校」の特徴

家庭学習指導
・宿題+自主学習（自学、自勉・・・）
・必ず教師が読み、手を入れ、子供に返す
管理職のリーダーシップとチーム意識の構築、実践的な教員研修
・教科をこえて研究授業を見せ合い、チーム意識を高める
・積極的に他校の授業を見に出かける
小中連携教育
・教育課程や学習面で連携し、系統性を持った指導を図る
言語に関する授業規律や学習規律の徹底
・書くこと、話すこと、聞くことを大切にする
・ノート指導
学力調査の活用
・学校の課題を明確にする際に活用
基礎基本の定着の重視と、少人数指導、少人数学級の効果
・発展的な学習よりも、基礎基本の定着を重視
放課後や夏期休業期間中の補習

教職課程に係る科目区分の大括り化(教育職員免許法関係)

教職課程において、より実践的指導力のある教員を養成するため以下の改正を行う

1. 科目区分の大括り化(法律事項)

現在、「教科に関する科目(大学レベルの学問的・専門的内容)」と「教職に関する科目(児童生徒への指導法等)」等に分かれている科目区分を、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とする「教科及び教職に関する科目」に大括り化する。

教科及び教職に関する科目	
教科に関する科目の内容例	教職に関する科目の内容例
・物理学	・学習指導要領における理科の目標と内容
・化学	・模擬授業
・生物学	・板書計画や指導案の作成

※上記の他、「教科又は教職に関する科目」の区分もある

2. 履修内容の充実(省令事項※)

学習指導要領の改訂等を踏まえ、現在の学校現場で必要とされる知識や資質を養成課程において履修できるよう、教職課程に以下の項目を追加することとする。

※教職課程の大きく化により、これまで以上に機動的かつ弾力的に、新たな教育課題に対応できる教職課程の改善を弹力的に図ることが可能となる。

教職課程に新たに加える内容の例

- ・アクティブラーニングの視点に立った授業改善
- ・ICTを用いた指導法
- ・道徳教育の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・チーム学校への対応
- ・学校と地域との連携、学校安全への対応
- ・総合的な学習の時間の指導法
- ・キヤリア教育 等

学校インターンシップの実施イメージ

<具体的イメージ(例)>

大学の教職課程の学習内容

○教職の意義等に関する科目

○教育の基礎理論に関する科目

○学校インターンシップ

- 教育課程及び指導法に関する科目
- 教科に関する科目

1年次

- 教育課程及び指導法に関する科目
- 教科に関する科目
- 生徒指導・進路指導等に関する科目

2年次

- 教育実習

3年次

- (教員採用試験)
- (○教職体験型学校インターンシップ)
(採用予定者)

4年次

[パートーン]

- インターンシップ2単位(60時間の実習)とした場合
(例1) 通年型 : 每週水曜日 × 2時間 × 30週
- 分割型 : 每週水曜日 × 2時間 × 15週(1年次)

- 上記に加えて、30時間の自主的学修が必要
(例2) 分割型 : 每週水曜日 × 1時間 × 15週(2年次)
- 毎週金曜日 × 1時間 × 15週(4年次)

※ 各大学の判断により、様々な形態で実施。
※ 実現可能性について、学校種別に詳細な検討が必要。

[具体的な活動内容]

- 児童、生徒等の話し相手、遊び相手
- 授業補助
- 学校行事や部活動への参加
- 事務作業の補助
- 放課後児童クラブ、放課後教室、土曜授業の補助

内容	学校インターンシップ	教育実習
内容	学校における教育活動や学校行事、部活動、学校事務などについて、支援や補助業務を行ふことが中心	学校の教育活動について実際に教員としての職務の一部を実践させることが中心
実施期間	教育実習よりも長期間を想定 (ただし、一日当たりの時間数は少ないことを想定)	4週間程度 (高校の場合2週間程度)
学校の役割	学生が行う支援、補助業務の指示 (教育実習のように、学生に対する指導や評価は実施しない)	実習生への指導や評価の作成(そのための指導教員を専任し、組織的な指導体制を構築)

教員として採用

文部科学省教員勤務実態調査－教諭の勤務時間

○教諭の1日当たり勤務時間(勤務日):10時間22分(うち残業時間:1時間43分)

→項目別に見ると、

- ①児童生徒の指導に直接的にかかわる業務:5時間59分
(朝礼、授業、補習指導、生徒指導、部活動・クラブ活動、児童会・生徒会指導、学校行事 等)
- ②児童生徒の指導に間接的にかかわる業務:2時間2分
(授業準備、成績処理、ホームルーム、連絡帳の確認、学年・学級通信の作成 等)
- ③学校の運営にかかわる業務及びその他の業務:2時間6分
(学校経営、会議・打合せ、事務・報告書作成、研修、その他の校務 等)
- ④外部対応(保護者・PTA対応、地域対応、行政・関係団体対応 等):0時間12分

○教諭の1日当たり勤務時間(勤務日)

	第1期 (7月分)	第2期 (8月分)	第3期 (9月分)	第4期 (10月分)	第5期 (11月分)	第6期 (12月分)	平均
①児童生徒の指導に直接的にかかわる業務	6時間27分	2時間17分	7時間06分	6時間55分	6時間48分	6時間25分	5時間59分
②児童生徒の指導に間接的にかかわる業務	2時間24分	1時間23分	1時間55分	2時間07分	2時間00分	2時間27分	2時間02分
③学校の運営にかかわる業務及びその他の業務	1時間43分	4時間24分	1時間31分	1時間37分	1時間48分	1時間36分	2時間06分
④外部対応	0時間22分	0時間10分	0時間08分	0時間10分	0時間16分	0時間12分	0時間
合 計	10時間58分	8時間17分	10時間39分	10時間48分	10時間47分	10時間45分	10時間22分
うち、残業時間	2時間09分	0時間26分	1時間56分	1時間57分	1時間56分	1時間53分	1時間43分
休憩時間	0時間09分	0時間44分	0時間10分	0時間07分	0時間07分	0時間06分	0時間14分
○1か月当たり残業時間							
1日分×20日	43時間00分	8時間40分	38時間00分	35時間40分	38時間40分	37時間40分	34時間20分

文部科学省教員勤務実態調査一業務の分類

a 教の業務	朝打合せ、朝学習・朝読書の指導、朝の会、朝礼、出欠確認など
b 授業	正規の授業時間に行われる教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業、試験監督など
c 授業準備	指導案作成、教材研究・教材作成、授業打合せ、総合的な学習の時間・体験学習の準備
d 学習指導	正規の授業時間以外に行われる学習指導(補習指導、個別指導など)、質問への対応、水泳指導など
e 成績処理	成績処理にかかる事務、試験問題作成、採点・評価、提出物の確認・コメント記入、通知單記入、調査書作成、指導要綱作成など
f 生徒指導(集団)	正規の授業時間以外に行われる次のような指導:給食・栄養指導、清掃指導、登下校指導・安全指導、遊び指導(児童生徒とのふれ合いの時間)、保健・保健指導(健康診断、身体測定・けが・病気の対応を含む)、生活指導・全校集会、避難訓練など
g 生徒指導(個別)	個別の面談、進路指導・相談、生活相談、カウンセリング、課題を抱えた児童生徒の支援など
h 部活動・クラブ活動	授業に含まれないサークル活動・部活動の指導、校外試合引率(引率の移動時間を含む)など
i 学校行事	児童会・生徒会指導、委員会活動の指導など
j 学級活動	修学旅行・遠足・体育祭・文化祭・発表会・入学式・卒業式・始業式・終業式などの学校行事、学校行事の準備など
k 学年・学級経営	学級活動(学活・ホームルーム)・連絡帳の記入・学年・学級通信作成、名簿作成、掲示物作成、動植物の世話を、教室環境整理、備品整理事業など
l 学校経営	校務分掌にかかる業務、部下職員・初任者・教育実習生などの指導・面談、安全点検・校内巡回、機器点検、点検立会い、校舎環境整理、日番など
m 会議・打合せ	職員会議、学年会・教科会、成績会議、学校評議会、その他教員同士の打合せ・情報交換、業務関連の相談、会議・打合せの準備など
n 事務・報告書作成	業務日誌作成、資料・文書(調査統計・校長・教育委員会等への報告書・学校運営にかかわる業務、予算・費用処理にかかる業務)の作成、年度末・学期末の部下職員評価、自己目標設定など
o 校内研修	校内研修、校内の勉強会、研究会、授業見学、学生研究会など
p 保護者・PTA対応	学級懇談会・保護者会、保護者との面談や電話連絡、保護者応対、家庭訪問、PTA関連活動、ボランティア対応など
q 地域対応	町内会・地域住民への対応・会議、地域安全活動(巡回・見回りなど)、地域への協力活動など
r 行政・関係団体対応	教育委員会関係者、保護者・地域住民以外の学校関係者、来校者(業者、校医など)の対応など
s 校務としての研修	初任者研修、校務としての研修、出張をともなう研修など
t 会議	校外での会議・打合せ、出張をともなう会議など
u その他の校務	上記に分類できないその他の校務、勤務時間内に生じた移動時間など
v 休憩・休憩	校務と関係のない休憩、休憩、休憩など

人間発達科学部 発達教育学科 社会人入試 小論文解答用紙

受 驗 番 号

問 1

人間発達科学部 発達教育学科 社会人入試 小論文解答用紙

受 驗 番 号

問2 (その1)

人間発達科学部 発達教育学科 社会人入試 小論文解答用紙

受 驗 番 号

問2（その2）

下書き用紙